

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900142		
法人名	有限会社 ワンカラ		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	高知県宿毛市港南台2丁目9-25		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大事にし、利用者が安心して生活できるよう支援しています。健康な生活の維持を一番の目標に掲げ、夏、冬を問わず、毎日散歩に出掛けて、体力維持を図っています。車で出掛ける行事を計画し、極力外出できるように支援しています。医療との密な連携を行い、インターネット回線を相互に利用し、伝達報告をすることで、利用者の生命の維持に全力を注いでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=3970900142-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和2年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高台の新興住宅地にあり、津波などの心配もなく、利用者がゆっくり散歩を楽しめる、静かな環境にある。
 管理者は看護師の資格を有し、利用者の持っている機能を保つことが重要だと考え、毎日の散歩、食事前の口腔体操、脳トレーニング、レクリエーション活動を行っている。毎日の散歩には車いすの利用者も含めて全員が参加しており、体力維持だけでなく、外気浴、気分転換、職員との1対1でのコミュニケーションの場にもなっている。
 また、国、県が進める医療機関と介護施設間のネットワークシステムである「はたまるネット」を活用して、入院期間中の機能低下について理学療法士と連絡を取り合うなど、医療との連携について高い意識を持ち、利用者が常に安心して暮らせる環境づくりを目指している。職員は、利用者、家族が希望すれば事業所での看取りは当然と捉えて支援をしており、日常では利用者のいつもと違う様子、変化を見逃さず、自分たちの笑顔が利用者の笑顔につながると、笑顔のケアに努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会とつながりながら生き続けることを実現してゆくため、地域との関係性を重視し、理念を大切にすることを努めている。	理念を職員同士で話し合い、共有したうえで支援に活かしている。「笑顔の絶えない家庭的な生活環境を提供します」という理念が実践され、職員は笑顔で利用者と向き合い、利用者も笑顔を返してくれる場面が多く見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は散歩や買い物などに出かけ、地域住民と挨拶を交わしたり、話をするに努めている。地域住民の一員として、団地会に加入している。	利用者全員が散歩を日課にしており、その際に近隣住民と挨拶を交わしている。小学校の文化祭に行ったり、地域の一斉清掃に参加するなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から看護学生の受け入れを開始し、認知症高齢者のケアの啓発と人材育成に役立てればと考えている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開かれた事業所として今取り組んでいる。これまでの評価結果や現在取り組んでいる内容について報告して、理解を得るとともに意見をもらうことにしている。	推進会議では事業所で取り組んでいることなどを丁寧に説明し、意見交換の場としているが、参加者は固定化しており、家族には全員に、区長にも案内をしているが参加に結びついていない。議事録の家族への送付も行われていない。	家族、区長の参加を促し、外部からの意見が運営に活かせるようにするとともに、議事録を家族に送付し、事業所の活動を周知していくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	身寄りのない利用者の最終段階に入って、どのように対応すればよいか、市に相談を持ちかけたりしている。	市の高齢者担当、生活保護担当、地域包括支援センターと運営推進会議や電話、来所時に事業所の取り組みや、困ったことなどの相談ができる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない宣言をして、事業所として権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。	研修を重視し、外部研修や事業所内での研修や勉強会で拘束とは何か、自分たちのケアに拘束はないかの話し合いを重ね、ベッド柵、センサーマットなども使用しない、身体拘束をしないケアを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスを繰り返し実施することで、虐待防止に対する職員の意識や理解の浸透を図り、人間の尊厳について考える感覚を持ち続けられることを重視している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用し得る利用者もいるが、その周囲にある問題から実現は難しい。職員は、制度についての勉強は行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	折に触れて時間をとり、説明することになっている。特にリスクや重度化時の看取りケアに関すること、医療との連携などをくわしく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時等に積極的に問いかけを行い、何でも話してもらえるように接遇にも気をつけながら、聞き出すことを心掛けている。	利用者からは言葉だけでなく表情や目の動きからも思いを把握するようにし、ケアに活かしている。家族からは来所時等にゆっくり意見を聞くようにしているが、身寄りのない利用者が増え、困難な現状にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会や勉強会の中で意見を聞き、把握した案件についても個別に意見を聞いている。	職員からはホーム会やカンファレンスの場など、色々な場面で活発な意見が出され、ケアに関する提案は話し合い、取り入れるようにしている。管理者は母体法人の代表者でもあり、個別面談で意見を聞く機会も持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者として現場におり、利用者の状況を把握している。職員の資格取得に向け、費用の負担や業務扱いにする配慮などの対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて研修計画を実施し、事業所内でも毎月研修を行っている。外部研修を受けた職員は、伝達研修をして、内容を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症協会に参加し、他事業所の職員と話したりすることで情報共有し、資質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に会い、状況を確認して本人の思いを聞き、不安なく生活できるよう、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス申し込みの際、本人の状態や家族が困っていること等を聞かせてもらい、思いを受け入れるようにしている。家族間の違いも確認し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族の必要としていることを話し合い、対応の仕方等を詳しく説明して、家族に信頼してもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所生活の中でできることには参加してもらい、共に生活している意識を持ち、生活できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時には、本人との間を取り持ったり、本人の日頃の状態を報告したりして、対話を絶やさないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が若い頃から利用していた美容院に入所後も通っており、店の人と話をしたり、ゆったりとした時間を過ごし、馴染みの関係を維持している。	入所前から利用している美容院に通い続けている利用者は、継続的な交流が続けられている。また、来所してくれる美容師とも新たな馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、皆で過ごす時間を作ったり、利用者同士の関係が上手くいくように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移ったり、入院した退所者に対しても、機会をつくって訪問している。新しい暮らしの中でこれまでの生活が維持できるよう、情報提供したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってどのような暮らしをするのが良いのかを、家族や知人を交えて話している。	丁寧な利用者への接し方で思いや意向の深い把握ができ始めた。入所後に把握した情報を書き加え、職員間で情報共有してケアプランに活かせるよう努めているが、十分ではない。	前回の目標達成計画に引き続き、把握した利用者一人ひとりの思いや意向を誰が見ても分かる記録とし、それをケアに活かすことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアをするために今までの生活歴などを把握し、個性や価値観の把握経過を知るために、プライバシーには十分配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を把握しながら変わりあれば、職員間で申し送りをし、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント、モニタリングを行い、介護計画を作成し、状態に変化あった際には、その都度カンファレンスを行って見直している。	介護計画は6ヶ月毎、又は本人の状態に変化があったときは随時見直している。利用者がのびやかにのんびり過ごせることを重視し、職員全員参加のカンファレンスで計画をつくっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表、ケア記録を記入し、職員間で情報共有して、介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に必要な支援を家族と相談し、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開き地域包括支援センター、市役所、民生委員に参加してもらい、情報提供を通じ理解してもらえるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族がかかりつけ医を決め、往診や受診がスムーズに受けられるよう支援している。	基本的には家族付き添いでの受診と協力医による月1回の往診で、継続的に適切な医療が受けられるよう支援している。家族が付き添うときは受診結果の報告を文書で依頼し、返事は日誌に記録して職員間で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や入浴時のボディチェック等、利用者の日々の状態を観察し、変化があれば速やかに看護師に報告している。1日のまとめとして、全体報告も必ずしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先に利用者のサマリー、フェイスシートなどを速やかに提供し、スムーズな医療連携を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては家族と話したり、医師とも情報共有して、事業所全体で支援している。	これまで7件ほどの看取り実績があり、看取りを経験した職員を中心に事業所内研修を重ねることで、職員は不安なく看取り介護ができる状況にある。利用者、家族には入所時に説明し、状態に応じて意思を確認し、医療連携により看取りの希望に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年応急処置などの研修をして、急変に対応していくよう心がけ、消防隊の協力を得てスムーズな対応ができるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを確認し、急変に対応して行くようにしている。市の全体避難訓練にも積極的に参加している。	年5回、うち1回は消防署の協力も得て、利用者と避難訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加しており、近隣住民の事業所訓練への参加もある。水、食料等を3日分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けするときは、耳元で大きな声を出さないように心がけている。職員同士で話し合い、気をつけている。	職員は、「ちょっと待って」等の不適切な声かけや、慣れ合いの友人感覚での対応をすることなく、利用者を目上の人として尊重した接し方を心がけている。気になる言動は、互いに注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のプライバシーや尊厳等に気を付けながら、本人の過去の暮らし等も把握して、意識しながらケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業優先ではなく、利用者のペースに沿って、個々を大切にされた家庭的な生活づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の価値観で考えるのではなく、本人の意思に合わせて支援をし、介助が必要な利用者には服を選んで着てもらいながら、自己決定に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることはできるだけ安全を確認しながらしてもらい、食事も職員と一緒に食べながら支援に努めている。	献立、食材調達は外部委託で、調理は職員が行っている。利用者の希望で、刺身をメニューに加えたりもしている。利用者は下膳、テーブル拭き、ランチョンマットたたみ等、できることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を常に記入し、残して異変等が確認できたときは看護師等に報告している。水分の増減等も健康記録に記入し、チェックしながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が起きたときには必ず声掛けをし、歯磨きをしてもらい、義歯は洗浄して入れてもらい、食後も声掛け誘導等で口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食後等にトイレ誘導を行い、個々に応じて排泄の声掛けを行っている。排泄の際も、自分でできることはしてもらい支援を心掛けている。	利用者全員の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行って、トイレでの排泄を徹底している。夜間にも声かけ誘導している。その結果、紙パンツ、パットの使用量減につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者は、水分補給や毎朝散歩の運動をしている。排便の重要性を認識し、常に介助に工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は時間などの希望を聞いて、入浴時間が短めの利用者には熱めのお湯を体に何回もかけて体を温め、短時間で満足してもらえるように取り組んでいる。	日曜日以外は、全員の利用者が毎日入浴している。風呂場の前には、希望を聞いてその日の入浴順番が貼り出されている。入浴を嫌がる利用者は、順番や声掛けをする職員が代わったりすることで、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせ、ケア記録等に目を通して利用者の過去の状態を把握し、寝付けない利用者とはお茶等を飲みながら会話して、心地よい安眠につなげる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬を把握するようにしている。利用者が服薬する際には、誤薬がないように努めている。副作用等は説明書や看護師に速やかに問うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力を見極めながら、お願いできそうな仕事を頼み、ありがとうの感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月間行事に取り入れることで、利用者から希望を聞くなどして、全員での外出支援を実施している。買い物を楽しみな利用者は、職員が付き添って個別に外出支援している。	車いすの利用者を含め、全員が散歩を日課としており、体力維持、外気浴、職員との1対1のコミュニケーションの機会としている。個々の希望で買い物に行ったり、全員で外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援の折には、自分でお金を持ってもらい、レジでの支払いも本人にしてもらう等の配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話して、近況を伝えたりしている。手紙等内容が漏れないよう、居室で読んでもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体調を考えた室内の温度設定をしている。季節に合わせた飾りつけもしている。	利用者が職員とレクリエーションで作った季節の飾り付けがされ、利用者の習字が並べられた居間で、居心地よく過ごしている。利用者は、居室より居間のそれぞれのお気に入りの場所で過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他に利用者が座れる椅子を置き、気兼ねなくゆっくりしてもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品や入所時に持参した物品を配置することで、居心地が良くなるように気をつけている。	ベッドと整理筆筒の備品の他に、仏壇、テレビ等が置かれ、家族の写真やはがきが飾られていたり、シンプルであったりと、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの利用者に合わせて環境作りを工夫し、自立した生活が送れるように気をつけている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない